

閉会挨拶

東京会場

田中英成

一般社団法人 日本コンタクトレンズ協会 会長



本日はご登壇いただきました先生方には大変熱心に、また分かりやすくご説明をいただきましたので、皆様も本当によくご理解いただけたのではないかと考えております。また、ご来賓の方も含めて多数の方が最後まで熱心にご聴講いただきましたことを改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、私事になりますが、現在、日本コンタクトレンズ協会の会長を務めさせていただいています。なぜ日本コンタクトレンズ協会の会長がメガネをしているのだと思われるかもしれません。実は今年で52歳になりますが、それまではずっとコンタクトをしていました。昨年春、夕方人と待ち合わせをしている時に非常に見にくいなということに自覚しまして、少し白内障が進んでいるかもしれないと思いました。そこで、コンタクトレンズの検査を受ける際に、自分の目を主治医の先生に見ていただきました。そうしましたら、視力は1.0あるのですが、明らかに白内障が進んでいました。まだ若いつもりでいたのですが、白内障だったのです。しかも、閉塞隅角緑内障予備軍でもあり、目が疾患のデパートみたいになっておりました。「これはいかん」ということで、直ぐに手術をすることを決めまして、昨年5月に両眼の手術をしました。手術をしたので、今はコンタクトレンズではなく、メガネをしています。お陰様で非常によく見えるようになり

ました。実はメガネを外しても遠くの方の顔も分かりますが、よりはっきり見るためにメガネをかけておまして、そういう意味では生きた見本のような状況になっております。実は私、眼科医もやっておまして、眼科医が医者の不養生で白内障になったわけではなくて、加齢が原因でございまして。少し早い加齢ですが、手術を受けることで非常に良くなったのです。私が医者になったばかりの時代、それこそ25年ぐらい前の話ですが、その頃だったら恐らく手術を受けていません。というのは、先ほど永本先生のお話にもありましたが、今の医療技術が非常に進歩して、自分自身がこの手術なら受けたい、視力が1.0あっても受けたいと思えるぐらい手術が非常に進化したからです。確かに1%のトラブルがあるのかもしれませんが、まだ若いつもりですから不自由な体で見えない生活をするよりも、見える生活をしたという強い思いで手術をして、今は非常にハッピーであります。

今日の一つのキーワードは早期発見、早期治療。これによって国家財政の医療負担も減りますし、個人の経済的損失も少なくなります。そういう理念のもとで医療機器産業界全体として早期診断、早期治療、それに役立つ新しい医療機器を開発していきたいという強い思いでおります。皆様のご支援をいただけるものと信じて、私も頑張っておりますので、ご理解とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

閉会挨拶

名古屋会場

梶谷文彦

医療技術産業戦略コンソーシアム 議長



本日は多くの方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。非常に意義深いフォーラムで、皆様も貴重な情報を得られたのではないかと考えております。

プログラムコーディネーターを務めて下さいました根木先生、パネリストの永本先生、富田先生、湯澤先生、白井先生、大変ありがとうございました。それから、パネルディスカッションのコーディネーターの読売新聞編集委員の前野氏には、素晴らしい進行をしていただき、日頃は聞けない話をいろいろ聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

最初に根木先生が言われました“我々の情報の80%は「目」から得る”というのには、驚きました。同時に、アメリカ国立衛生研究所(NIH)の理事長が「人間の器官の中で最も優れているものは目である」と言っていることを思い出しました。その優れた器官である「目」が故障すると、我々の生活の質も落ちてしまいます。

本日のフォーラムの最初に日本医療機器産業界の萩野会長が言われましたように、日本の今後の新成長戦略の柱である“Life Innovation”の中の重要対象事項は“医療、介護、健康”です。この健康を守るためには「目」が非常に大切なものになると言えます。今日は緑内障、白内障、加齢黄斑変性について、具体例を交えた話を聞き、皆様もよく理解できた

のではないかと考えております。

萩野会長も紹介されましたMETIS(医療技術産業戦略コンソーシアム)は、産官学(このうちの「官」は内閣府、厚生労働省、経済産業省、文部科学省で、「学」は研究機関や病院が入ります)が共同して、国民の皆様に必要な医療機器の開発や普及促進、迅速な医療の場への供給のため、様々な活動を行っています。METISも頑張っておりますが、皆様の協力と応援がなければ決してうまくいきません。日本の「医療機器産業」に対する応援をよろしく願います。本日はありがとうございました。